



選択研修会 「FBM (ファシリテーション・ボール・メソッド) の基礎と体験」 (2022.12.6)

本校高等部主事の鵜野みゆき先生を講師として、FBM の基礎知識について研修を実施しました。FB (ファシリテーション・ボール) とは、空気量を調節したやわらかいボールのことです。参加人数分の FB を用意し、実際に FB の特性を体験しました。身近に FB を取り入れることで、バランス感覚や調整能力に働きかけることができると教えていただきました。

FBM の効果について(資料より抜粋)

- 心と体のリラクゼーション
- コミュニケーションの広がり
- 自発性の芽生え
- 重力負荷が軽減され動きやすい環境設定ができる。



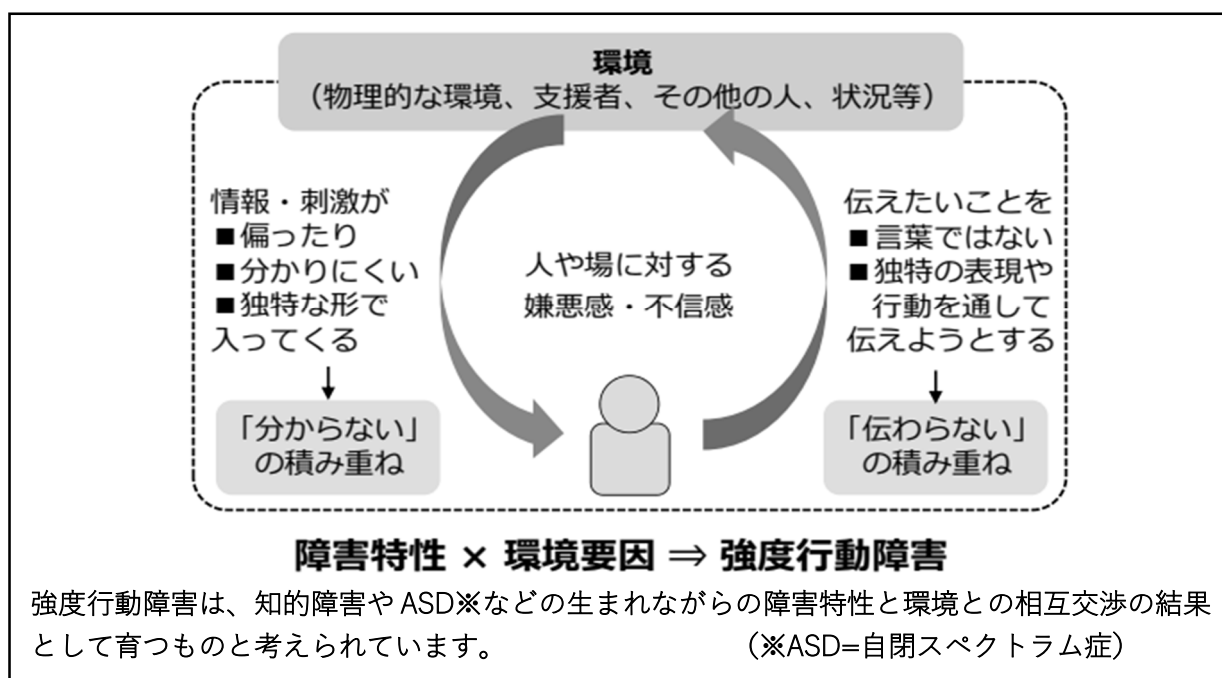
背景を理解し、適切な支援をするために



「強度行動障害」の基礎知識



「強度行動障害」とは医学的診断名ではなく、行政・福祉において使われている用語です。
 「直接的他害（かみつきの、頭突きなど）や間接的他害（睡眠の乱れ、同一性の保持など）、自傷行為などが、通常考えられない頻度と形式で出現し、その養育環境では「著しく処遇の困難なものを言い、行動的に定義される群」と定義されています。





強度行動障害を予防するために

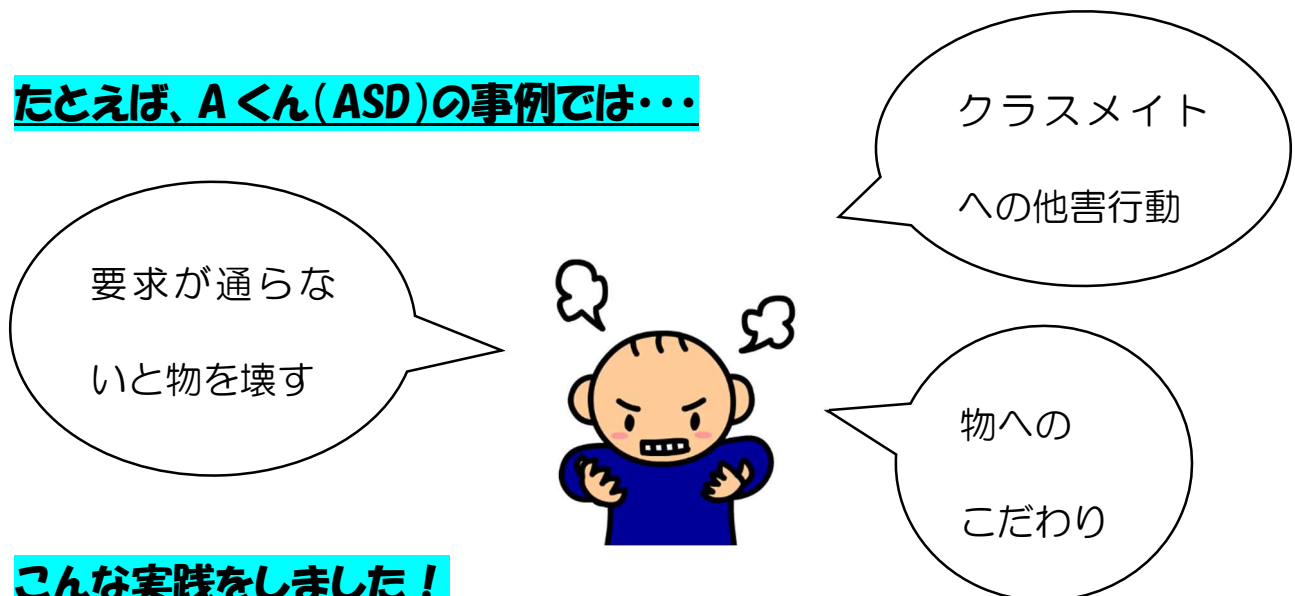


強度行動障害は、小学校高学年から出現し、中高生の年代に激しくなっているケースが多いと言われています。強度行動障害は生まれながらの障害ではなく、前述のように特性と環境との相互交渉により二次的に生じるものなので、背景の理解や環境の工夫により予防したり改善したりすることができます。

強度行動障害を予防(改善)するために、学校現場で大切なこと

- アセスメントをすること(感覚の過敏さなど、特性を理解する)
- 子どもの行動を分析し、共通理解すること(冰山モデル、ABA)
- 環境を整えること(物理的構造化、スケジュール、ワークシステム)
- 一人でできる課題を見つけること(一人で過ごせる時間を作る、自己効力感を高める)
- コミュニケーション力を高めること(実態に合ったコミュニケーション手段を見つける)
- 多職種チームの一員として支援をすること(医療・福祉・家庭と連携をする)

たとえば、Aくん(ASD)の事例では…



こんな実践をしました！

ASD の特性への配慮

- 活動のエリアを分け、教室を構造化する。
- 個別のスケジュールを用意する。

アセスメントと行動分析

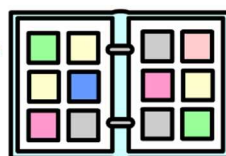
- 行動支援シートを使って問題行動を分析する。
- 学年会やケース会議で検討する。

自立課題を取り入れる

- 一人でできるように、ワークシステムやスケジュールを工夫する。

福祉・医療との連携

- 地域の相談支援事業所や市の福祉課とケース会議を設ける。
- 主治医の診察に担任が同行し助言を受ける。



コミュニケーション

- カードを使って選択したり、伝えたりする場面を増やす。
- ICT を利用する。

困っているのは子どもたち本人

強度行動障害は周囲の人を困らせますが、それは「困らせる」ための行動ではなく、本人が「困っている」ことのサインだと言われます。強度行動障害の要因は様々で、一言で説明することはできませんが、失敗経験や嫌悪的経験の積み重ねも要因の一つであると言われています。子どもの行動の背景を知り、成功体験を多く経験できるようにし、安心できる環境を整えることが自尊感情を育てることになり、行動障害の根本的な解決や予防へつながると考えられています。

どうセダメだ・・・



自尊感情 UP！

何とかなるさ！大丈夫



職員室の「自立活動書籍コーナー」にありますので、ぜひご利用ください！

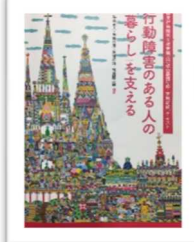


「対話から始める
脱！強度行動障害」

日詰正文・吉川徹・樋端佑樹著
日本評論社



「チャレンジング行動」
エリック・エマーソン
スチュワート・L・アインフェルド著
二瓶社



「行動障害のある人の
暮らしを支える」
牛谷正人編集

中央法規出版



「自閉・他害・パニックは
防げますか？」
廣木道心＋栗本啓司＋榎本澄雄著
花風社

<参考文献>

上記 4 冊

月刊「実践障害児教育」 2019 年 7 月号 学研

日本自閉症協会 ASJ ニュース「いとしご」No.192 2022 年 1 月 8 日号

厚生労働省 強度行動障害リーフレット(2013) 厚生労働省 HP より

LITALICO 発達ナビ コラム「強度行動障害とは？」 <https://h-navi.jp/blog>